

[研究会報告]

第 36 回国際小児保健研究会報告

窪田 祥吾 (世話人) ¹⁾

1) 日本赤十字医療センター小児科

(現 JICA ラオス母子保健統合サービス強化プロジェクト)

1. 日時：2010年4月24日(土) 15:00-18:00
2. テーマ：国際保健における「栄養」
3. プログラム概要と内容

<第1部>

「栄養失調の臨床像とその治療、対策の実際」

赤羽桂子(長崎大学 医歯学総合研究科 国際保健学教室)

窪田祥吾(JICA ラオス母子保健統合サービス強化プロジェクト)

神谷保彦(長崎大学大学院 国際健康開発研究科)

第1部では、赤羽先生から「途上国での栄養失調のマネジメント」と称して、マラウィでの臨床経験を基に具体的な事例を挙げながら、栄養失調の臨床像や治療の実際などについて発表された。その後、窪田から「タンザニアのコンゴ人難民キャンプにおける栄養失調に対する取り組み」として、予防やフォローアップといった、コミュニティレベルでの取り組みの体験の発表。最後に、神谷先生から「重症(急性)栄養失調児 疫学、病態、診療、対策のポイント」として、栄養失調の病態生理や大きな課題である HIV 合併児の対策などが発表された。

<第2部> 特別公演

- 1) 「UNICEF の活動と栄養保健活動」 演者：國井修(ユニセフ・ミャンマー事務所)
- 2) 「途上国と先進国の栄養問題」 演者：吉池信男(青森県立保健大学健康科学部)

特別公演では、経験豊富な二方からの発表をいただいた。國井先生からは、栄養問題にかかわる世界の現状と、UNICEF による栄養問題に関する具体的な取り組みが紹介された。吉池先生の発表では、日本における栄養問題の経験を踏まえながら、現在さまざまな発展段階の国における国境を越えた栄養にまつわる課題、その対処法について考察した。

<第3部> パネルディスカッション

テーマ「食と子どもと健康」

司会：中村安秀

パネラー：國井修、吉池信男

「食と子どもと健康」をテーマに会場からの質疑応答を中心にディスカッションが行われた。